

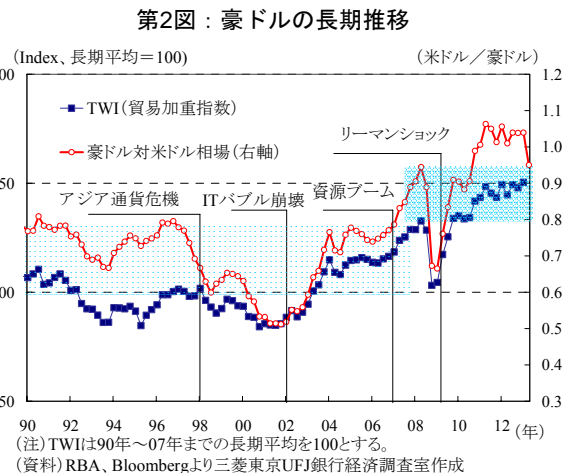
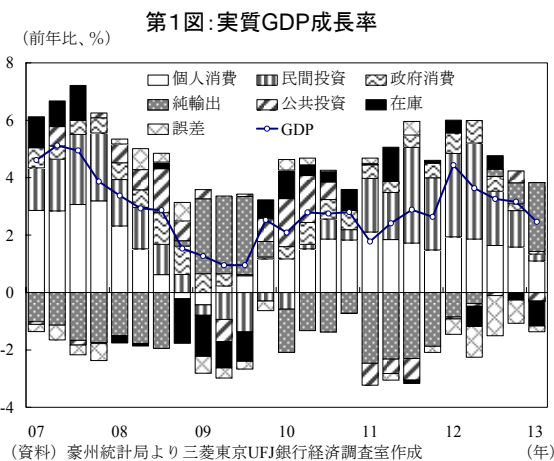
経済マンスリー [オーストラリア]

景気は減速感が鮮明、設備投資が成長の重石に

豪州経済は減速している。2013 年 1-3 月期の実質 GDP 成長率は前年比+2.5%と、前期 (同+3.2%) から減速した。需要項目別にみると、純輸出のプラス寄与は拡大したものの、従来成長の牽引役であった設備投資や個人消費の伸びが大幅に鈍化した (第 1 図)。1-3 月期の民間設備投資統計によると、同期の新規設備投資実績は前期比▲4.7%と、昨年 10-12 月期 (同▲2.1%) からマイナス幅が拡大した。産業別には、鉱業、製造業、その他部門のいずれも減少を記録した。足元の経済指標をみると、これまでの利下げ効果により消費や住宅投資が緩やかに持ち直している。他方、輸出は底打ちしたとみられるが、回復ペースは鈍い。最大の輸出相手国である中国の不冴えな経済指標が、豪州の企業マインドを下押ししている。また設備投資については、先行きの投資計画も減少する見込みであり、年間を通して成長の重石となる可能性が高い。

豪州の資源ブームは、第 1 段階の資源価格上昇による交易条件の改善から、第 2 段階の設備投資による成長押し上げを経て、現在は第 3 段階の、増強された生産能力を活用した輸出増加が期待されるフェーズに移行しつつある。このため、豪州中央銀行 (RBA) は景気減速に加え、価格面での輸出競争力を維持するため豪ドル高を抑制すべく、利下げしてきた。

豪ドルは 5 月の利下げ以降、米国の量的金融緩和の縮小観測や軟調な中国の経済指標と相俟って、大幅に下落した。一時は 1 豪ドル=0.91 ドル台半ばと、2 年 9 ヶ月ぶりの安値をつけた。もっとも、6 月の RBA 理事会の議事録をみると、中銀は足元の豪ドルの下落を認識しつつも、貿易加重指数 (TWI) でみた水準は歴史的にみてもまだ高いとの見方を維持している (第 2 図)。豪州経済が当面、潜在成長率を下回る成長ペースが続くとみられるなか、RBA は追加利下げに踏み切る公算が大きい。



照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
大幸 雅代 masayo_taiko@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。